

都道府県市町村から集まってきました、それをそれぞれのテーマ別に地球温暖化、あるいはオゾン層破壊、あるいは動物絶滅、そういったテーマで各北から南まで日本の人達がどのようなことを行政側でやっているかということ、みなさんにみていただくことができるし、同じように外国からはメキシコとか南京だとか、これは名古屋の姉妹都市ですが、そういったところからのポスターや情報、それからルフトハンザからのドイツの環境の考え方の紹介、それからまた、カザフスタン、ウズベキスタンの大使の協力によりそのブース、いかにきれいな景色をその国がもっているかということもみてもらいたいということでそういったことも行っています。

早川： もう環境一色になんか塗りつぶされるといふそんなかんじすらしますよね。

石黒： そうですね。それを環境といえば環境ということでしょうし、途中にですねある企業は環境クイズをやりますし、私どもが用意するのは環境モノポリというものがあまして、環境のこれはアメリカでつくられたものを日本風にアレンジしたんですが、子供たち5、6人参加して、それぞれ例えば地球温暖化について質問があります、ABCと質問があつて、Aですか、Bですか、Cですか、で、Cがあつていけばいくらというお金をもらうんです。最終的には全部セットがそろると、その点数をアメリカですから200ドルとか、100ドルとか足し算して、一番たくさんお金を集めた人が勝ちというような、銀行がひとりいましてね、モノポリですから5、6人の人が参加して、最終的に終るとだれが勝ちと、それは環境モノポリというゲームも場所でやって子供たちにきっと楽しんでもらえるんじゃないかと、そういうふうに思っています。

早川： そうですね。そういう楽しさや面白いなと思う中から、なにか環境を自分の目で学んでいくというのが当日なんかすばらしいことみたい・・・。

石黒： ええできればね。参加意識がもっと重要だと思ふんですね。傍観者としてそこを通り過ぎるんじゃなくて、自分も中に入ったと、我々が考えているのは、いかに中に入らせるかと、文句いってもらってもいいし、喜んでもらってもいいし、自分がそこに参加したという意識をもってもらえるようなブース作り、あるいは企画作り、そういったものをいちおう実現できればと思っていますけれど。

早川： そして今、旗に寄せ書きも募集をしていらっやって、寄せ書きをした旗をワシントンモールに持って行くんだそうですね。

石黒： ええ、いちおうですね、ワールドホストがディカプリオさんなんで、我々の方も若い人を集めまして、旗を持って行って当日日本代表としてディカプリオ氏に会って、それで彼からサインをもらってきたさいというふうに、それで世界が一つになると考えています。

早川： そうですよ、だからこの Earth day 2000 年地球の日というのは、今回たまたま 30 周年でそして 2000 年という 4 月 22 日なんですけれども、これからの課題として石黒さんはたとえば Earth day 地球の日にどんなことを望まれますか。